

文化遺産調査記者会見

蘇る足立の文化



始まりは「大千住展」



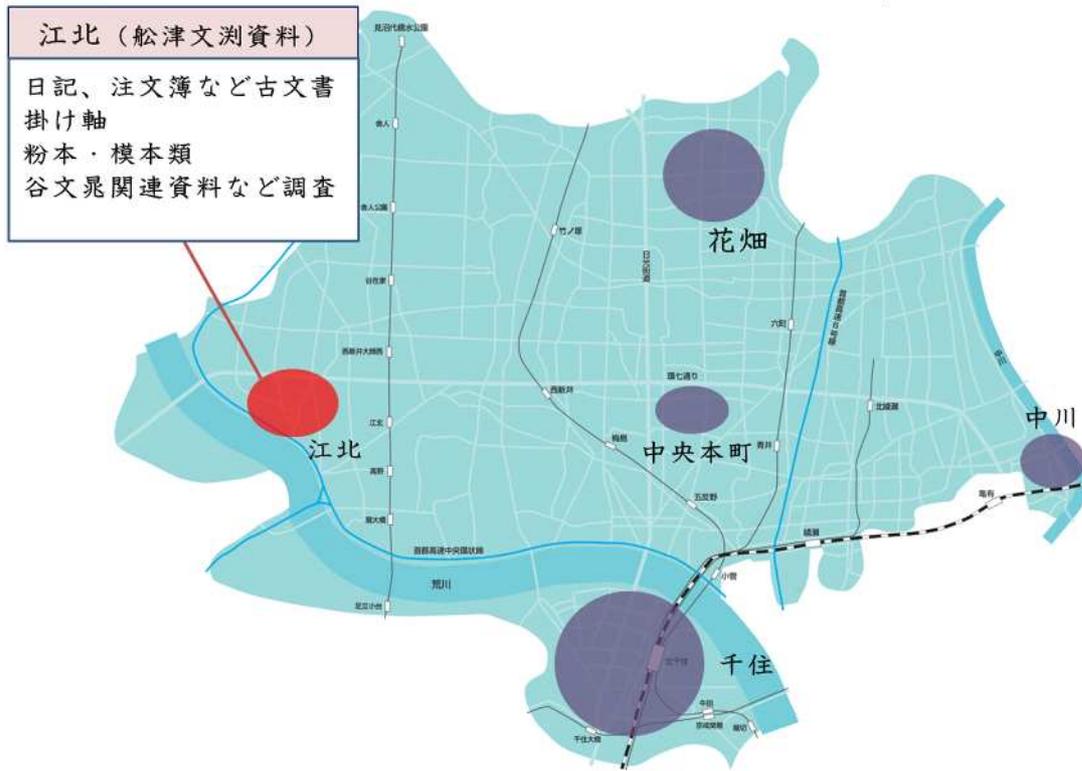
「みられる祭り」として、千住では祭礼のときに掛け軸や屏風、盆裁などを店先など誰でもがみられる場所に飾り、披露していた様子が大正時代の写真に写されている。

千住地域に伝わる祭礼具や美術工芸品の数々を「大千住展」(25年度)として郷土博物館で展示した。

「大千住展」の波及効果として、地域に継承されていた美術資料の情報が数多く郷土博物館に寄せられるようになった。

大千住(おおせんじゅ): 森鷗外「カズイスチカ」の中に見られる言葉。明治時代から昭和初期まで、宿駅制廃止に伴い「千住宿」に代わる言葉だったと考えられる。現在も一部の人が記憶している。

26～27年度調査

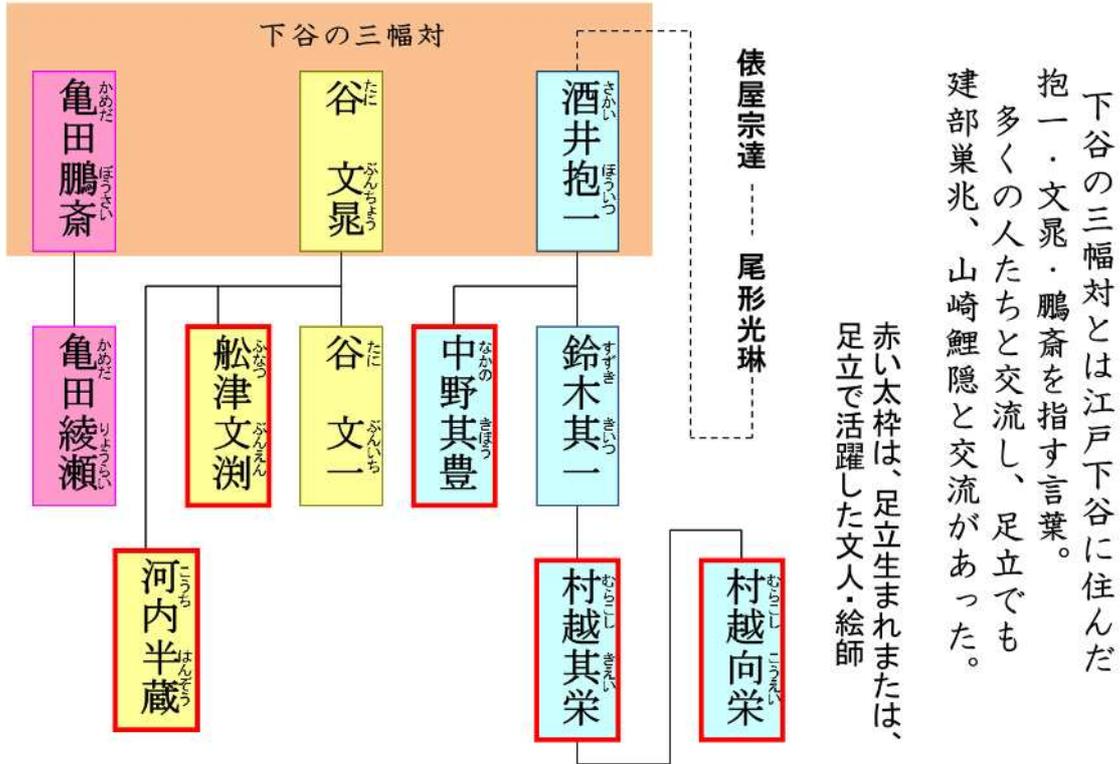


26年度、大量の船津文淵（ふなつ ぶんえん）関連資料と千ヶ崎梯六（ちがさき ていろく）関連資料を借用。調査研究を開始。

千住だけでなく、中川・中央本町などでも美術資料の確認が続いた。

27年度の調査件数は9家。調査研究のため、郷土博物館で調査収蔵の資料は現在およそ840点。

江戸文化の系譜と足立

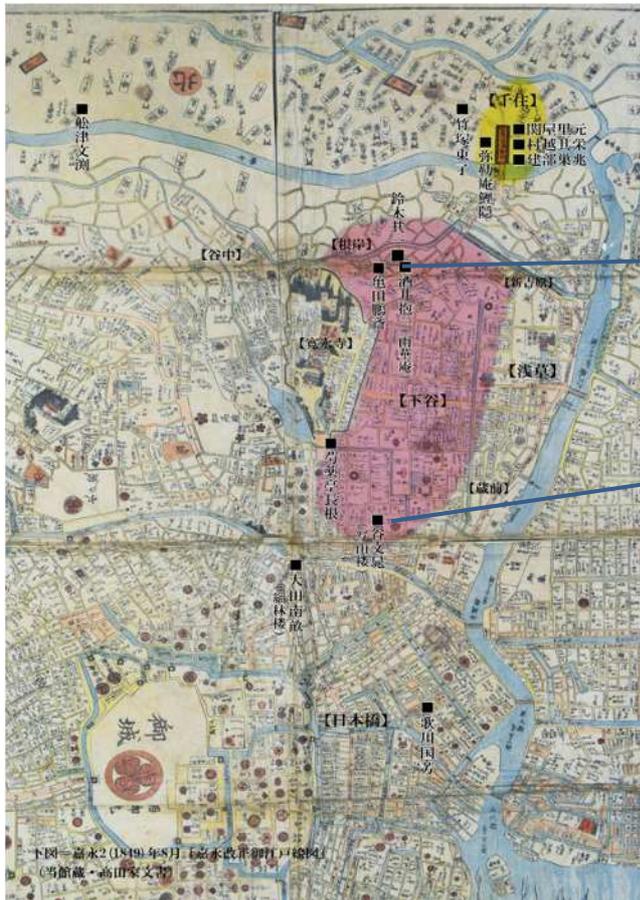


江戸琳派の酒井抱一の系譜に村越其栄・向栄親子の名も見られる。

村越親子の作品は「千住の琳派」展（23年度）で紹介した。

谷文晁には、船津文洌のほかに河内半蔵という足立の人も弟子入りしていたことが分かった。

下谷周辺と千住



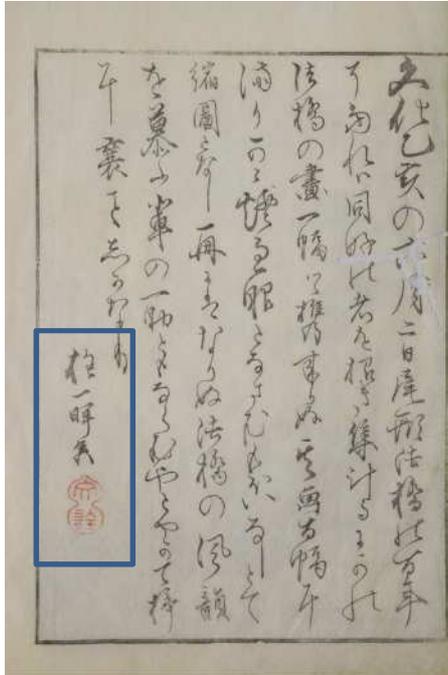
酒井抱一宅

谷文晁宅(写山楼)

酒井抱一の極近くに鈴木其一、亀田鵬斎が住んでいる。

谷文晁も同じ下谷に住んでおり、千住に近いことがよくわかる。

酒井抱一 光琳百図



縦 27.3 cm 横 18.3 cm

雲母(キラ)摺りがよく残っている

光琳百図は、酒井抱一が残した琳派研究の貴重書。

抱一の落款（左ページ）があること、摺りの状態の良さ、表紙のキラがよく残っていることなどから、オランダの資料より良質との評価を得た。

これまではオランダ国立民族学博物館ブロンホフコレクションのものが最良とされてきた。

鈴木其一摺物「歌仙図」



縦 22 cm 横 19 cm

在原業平（左）と小野小町（右）に、千住の歌人が和歌を添えている。

同様の作品がアメリカ メトロポリタン美術館に収蔵されている。

国内では初出資料と推定される。

西蛮画獣譜写



縦 37 cm 横 57 cm

画学斎（谷文晁）蔵と明記された資料。

一般には、ヨンストン「動物図譜」と言われているもの。

寛政期（1789-1801）に老中松平定信らによる蘭画収集によりもたらされたもので、国内にいくつかの写本がある。

谷文晁が写したものと考えている。

ヤーン ヨンストンは、17世紀のオランダの医学者・動物学者。

船津文淵筆
「金地彩色 小襖絵 四季草花図」



未計測のため寸法不明

船津文淵による作品で琳派の技法を取り入れ描いたもの。

谷一門の絵師たちも、琳派の技法をよく学んでいたことを示す秀逸な資料である。

足立区郷土博物館 文化遺産調査特別展

美と知性の宝庫 足立

平成28年3月12日(土)～5月22日(日) 開催

【問合せ先】

足立区立郷土博物館長

天光 眞一

電話(3620)9393